

「平成30年度7月豪雨」

災害義援金および支援カンパ等

合計 3,988,527円

各機関の創意工夫した取り組み、多くの仲間の皆様のご協力に感謝申し上げます。

また、ハンガリー鉄道労組から **1,966,278円** のカンパをいただきました。

ありがとうございました。

JR東労組第27回園芸部総会・研修会

第13回OB会を開催

園芸を愛する者たちの熱い想いは止まらない！

11月4日～5日樽葉サイクリングターミナル天神において、JR東労組第27回園芸部総会・研修会、第13回OB会を16名の参加者で開催しました。

総会では本部・上原法対部長より講演をいただきました。18春闘を大敗北と総括し、新生JR東労組として組合員の声を受け止め、再加入の取り組みを進めていることが述べられました。一方、JR東日本会社による不当労働行為と捉えられる事象やパワハラなどに対し、職場から抗議の声を上げ、「安全・健康・働きがいのある職場」を創り出していくことなど強く訴えられました。

現職部員の減少と18春闘での脱退により、園芸部としての活動を維持することが困難となり、二度の幹事会と今回の総会・OB会での承認により休部することになりました。しかし、園芸部を創り上げて来たOBの先輩方から、残念だという声を頂き、年に一回「園芸を愛する者」同士が集まる場を設けていくことが決まりました。そして「松の針金かけ」をOBの先輩に指導を受けながら、和気あいあいと研修会を行いました。

2日目は「原発事故被災地」を見学しました。7年過ぎても進まない復興と放射線量の高さに驚き、初めて現地に来て知ったことなど多くの組合員に伝えていきます。



ICLSに結集する韓国鉄道労働者22名の参加のもと、第21回日韓労働者交流登山大会が開催されました。この交流登山大会はJR東労組第27回登山大会に合わせて開催され、今年で21回目を迎えました。

27日に羽田空港に到着後JRバスにて筑波へ向かい、ホテルにて事前学習とJR東労組の現状の説明。意見交換を行いました。韓国の仲間からは、現状を心配する声とともに新生JR東労組に向けて、連帯を深めようという強い檄をもらいました。

28日には茨城県阿見町にある「予科練平和記念館」にて平和研修を行い、加害の歴史と被害の歴史を現在に活かすことを相互に確認してきました。

29日は早朝から登山を開始し、各地本から参加した青年部も同行して連帯を深めました。朝は雲が多かったものの山頂からは関東平野が一望できる口

第6回南相馬市鎮魂復興植樹祭を開催

災害に強い私たちを守ってくれる木に育ちますように！

11月4日、南相馬市鹿島区北海老地内に於いて「第6回南相馬市鎮魂復興植樹祭」が開催されました。当日は、晴天で汗ばむほどの陽気の中、森びとプロジェクトのインストラクターから植樹についての注意点や説明を受け、参加者で協力して、震災で犠牲となった方々への鎮魂と福島復興の願いを込めて、十数種類の常緑広葉樹を中心に植樹をしました。



植樹から20年で立派な森になるというのですが、森には、①津波の威力を弱め漂流物を食い止める。②火災時の延焼を防ぐ。③台風や豪雨でも倒れにくいという役割があります。地球温暖化による異常気象等、頻発する自然災害に対して、減災意識と危機感を今まで以上に持たなくてはなりません。

震災の経験や教訓を後世に継承していくために、12地本一体となって取り組んでいきましょう！

第27回本部登山大会

10月28日～29日

第21回目韓労働者交流登山大会

辛いときこそ仲間と共にならぼう

秋深まる筑波山で第27回JR東労組登山大会と第21回日韓労働者登山大会を水戸地本の準備で開催し、予想を遥かに上回る174名の仲間が集まりました。

今大会はサークルの大切さ、同じ趣味を持つ仲間よりどこかを創り出す思いで臨み、懇親会では各地本の報告や出し物、韓国の仲間からはたたかひの現状や取り組みの報告、そして多くの激励や連帯の言葉をいただきました。言葉はわからなくとも、熱い思いがしっかりと伝わってきました。

翌日は晴天の登山となり、筑波山神社から立派な木々の山道を登り山頂に到着しました。遠くに富士山を望み、霞ヶ浦から日光の山々まで好展望で、大成功の登山大会となりました。韓国の仲間が言っ

いた「たたかひは楽しく」辛いたたかひも「この仲間とだから頑張れる」との言葉が強く心に響きました。サークルから創り出す連帯を大切にしていこうと強く思いました。

山が好き、温泉が好き、仲間と飲む酒が好き。山から始まる組織づくりで、来年の大宮大会を成功させます！



ケーションとなり、参加者の歓声は一段と大きなものでした。

30日には皇居見学、両国・横網町公園にて関東大震災時における韓国労働者の虐殺に対する慰霊を行い、最終日の31日にはJR東労組本部へ表敬訪問を行い、同日帰路につきました。

労働者の連帯は海を越えてさらに強化されたことを相互に確認することができました。

「命」「安全」そして「職場の理性」を守り抜くためにも「原因究明委員会」をJR東労組として強化しなければならぬ▼働きやすく明るい職場は「困民党」のように理性的に、組織としてのたたかひで職場からつくっていくかなければならない。(M・N)



秩父困民党研修に参加した。深刻な不況と高利貸の暴利で困窮した農民たちは、1884年秩父を中心に蜂起を行い、時の権力者によって「暴徒による暴動」だと烙印を押されたが真実は違った▼困窮にあえぐ農民・民衆の生活を守るために「困民党」という組織形態に整え、目的と理性的な規律に沿って具体的な要求を掲げ行動を起こした。今では「自由民権運動の最後にして最高の形態」と言われるほど▼世の中を見渡せば、国民・労働者の想いに立たない法改正や経済状況をつくり出し、あたかも「国民のため」だと映し出されている。誰も格差や軍事力強化を望んでいない▼職場では、責任追及を行うことで事故を防げるかのような誤った風土がつくられようとしているが、私たちは形だけの対策やルール、懲罰的な日勤教育を求めている▼